



フレッシューズ・キャンプ

「仲間と触れ合う、ものづくりの基礎を学ぶ、 大学を知る」ことができた1日

理工学部 機械工学科 教授 (FC顧問) 白木 尚人

2021年4月8日(木)、機械工学科入学生116名によるフレッシューズ・キャンプ(以下、FC)を実施致しました。昨年度は新型コロナウイルスの感染拡大のためFCは中止となり、2年ぶりの開催となりました。感染防止対策に気を使いながら、世田谷キャンパスの大教室を利用した開催となりました。

10時に集合し、実行委員長の藤間教授よりFCの概要、機械工学科の研究室・教員の紹介後、富士原准教授より機械工学科が認定を受けているJABEE(日本技術者教育認定機構)の説明がありました。その後、白木教授より自校教育「大学の創立の経緯と建学の精神」の講演を行いました。午後は3名のグループによる「バスタタワー」競技を行いました。「バスタタワー」とは、市販の乾燥バスタをマスキングテープで繋ぎ、決められたルールに則って、高さを競う競

技です。タワー頂上には直径20mmの発泡スチロールのボールを刺すため構造を吟味しないと自立しません。乾燥バスタは脆くて細長く、テープも予想以上に重さがあるために、テープを巻付け頑丈にしたつもりでも、自重で座屈してしまいます。如何に軽く丈夫に作るか、構造力学を身体で学ぶ知的競技です。競技は練習を含めて3回行いました。回を重ねる毎に理想的な構造に近くなり、優勝したチームは、1m31cmの立派なタワーが完成しました。

FCを通して2年生から大学院生の上級生による授業、履修、学生生活全般に関する相談会も行い、1年生にとって、友達作り、ものづくりの基礎を学び、大学を知ることができた有意義な1日になりました。教員一同、今後の大いなる飛躍に期待しております。

知的競技を通じて親睦を深めた機械工学科のFC

本学では例年、入学式・オリエンテーションを終えた後の新入生たちは学科ごとに泊まりでフレッシューズ・キャンプ(FC)へと出かけ、学科についての理解を深めます。このFCは新入生同士や、新入生と教員との交流を図るためにも有意義なイベントですが、コロナ禍により昨年度は中止。今年度の機械工学科は十分な感染対策を取った上でキャンパス内での開催となりました。スケジュールは1日に短縮されましたが、各学科とも内容に工夫を凝らしたことで学生たちの評判も上々。中でもユニークだったのが、ものづくりの基礎を学ぶため「バスタタワー」という競技を取り入れた理工学部機械工学科のFCです。参加した学生のコメントをご紹介します。「都市大の歴史について学ぶことができ、改めて気持ちがピリッと引き締められました。今まで話したことがなかった人ともバスタタワーを通じて自然に親しくなれたのも収穫でした」(木村 駿介さん)。「例年のFCと内容は違ったようですが、授業や履修内容、学生生活全般に対する理解が深まりました。バスタタワーは単純な競技でしたが、どんな組み立て方をしたらより強度の高い建造物ができるのかを夢中で話し合い、なかなか楽しかったですね」(北村 嶺侍さん)。「コロナ禍の中でもこんな機会を設けてくださった大学に感謝いたします。ちなみにバスタタワーでは私たちの班は東京タワーのような構造を採用。結果好成績を残すことができました。仲間たちと問題点を話し合いながら改善していった過程は、今後の学びにも生きるような気がしています」(久我 聡さん)



木村さん・北村さん・久我さんチームは、2回の競技でそれぞれ1位、2位を獲得。総合優勝は逃しましたが好成績を収めました。